



第10回

ヘブル語講座アウカルト

【オール】

神は仰せられた。「光、あれ。」
すると光があった。(創1・3)

オール

オール

●ヘブル語の「オール」は「光」を意味します。この「光」は太陽の光とは異なり、神の「光」です。創世記から黙示録まで一貫して存在しているのが「光」です(創1・3、ヨハネ1・9、黙22・5)。特に、私たちがクリスチャンが最後に行きつく「新しいエルサレム」には太陽も月もありません。なぜなら、神がそこを照らされるからです。

●この光は人に「いのち」をもたらします。ですから、この光と出会えば、神を知ることも、神の計画も、神のみこころ・みむね・

目的も、また私たち人間の存在の目的さえも悟ることができないのです。その光の正体とは何でしょう。それは御子である「イエシュア」です。そのイエシュアが「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます」(ヨハネ8・12)と述べているからです。ここでの闇とはサタンが支配する暗闇の世界です。この暗闇から救い出された者の代表としてパウロがいます。

●彼はタマスコ途上で「天からの光」に照らされて盲目とされました。しかし三日目に、目から「鱗」のような物が落ちて「イエシュアこそメシアであると悟りました。このことよって、彼は聖書に一貫している神のご計画とみこころ、すなわち神と人々がともに住む(II)御国を受け継ぐ」ことが、イエシュアによって実現・成就すると悟ったのです。ですから、パウロは『闇の中から光が輝き出よ』と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいました。(II)コリ4・6)と述べています。「オール」であるイエシュアによって照らされた私たち教会は、さらに世を照らすメノラー(燭台)として、その偉大さをあかしする務めが与えられています。

(銘形秀則)

編集後記 (史料・機関誌委員会から)

世界中に蔓延、長引くコロナ禍の中で、終息の為に国内でもワクチン接種が始まり、急がれています。が、コロナはしたたか次第々と変異株に移行して、更に恐怖をおおります。

宇宙に飛び立ち、iPS細胞、遺伝子操作、電波は瞬時に世界を廻り、電子機器万能のこの時代、人間のおごり高ぶりを張り倒す様に、コロナウイルスが人間を襲い続けています。

モーセの、あの洪水の後の虹を思い、「もう二度と……！」と言われた神様が、時折、あく人の創造を悔いる！と嘆かれておられるのでは？
そして、「真のワクチンは、わたしだ！まだわかんないか!!」と嘆き悲しむ人々と共に、涙しておられるのでは……!?

発行者 宗教法人 日本神の教会連盟

東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

相原典之

編集者 沼 慎一

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話 & FAX 〇九二(九二四)五〇九八

はじめに神は…

ヘブル語の第六の文字「ヴァーヴ」は「くぎ、ピン」を象った文字です。

それは「上」である。上にとりつける。「こう」の意味があります。

そしてそれは、十字架に「かけられ」

復活、「天に上り」

やがて私たちをも「引き上げて」くださるイエスを表しています。

第二テサロニケ 四章十七節

作 神田 謙